

蚊媒介感染症対策について（施設管理者向け）

愛媛県保健福祉部

健康衛生局健康増進課

1 蚊媒介感染症とは

蚊媒介感染症は、ウイルスを保有するヒトスジシマカ等の媒介蚊に刺されることで発症し、デング熱やジカウイルス感染症等が該当します。

デング熱は、蚊に刺されてから3～7日（最大2～14日）の潜伏期間の後、急激な発熱で発症し、発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状が現れます。通常、1週間程度で回復しますが、ごくまれに出血症状やショック症状を起こして重症化することがあります（デング出血熱）。

一方、ジカウイルス感染症については、感染者からの輸血や感染者との性交渉により感染した事例が報告されています。また、妊婦が感染した場合、胎児に小頭症（頭が極端に小さくなる症状）が発生するリスクについても指摘されています。蚊に刺されてから2～7日（最大2～13日）の潜伏期間の後、発熱（多くは微熱）で発症し、発熱、発疹、関節痛、関節炎、結膜炎、頭痛などの症状が現れます。多くは重症化せず数日で回復し、発症するのは感染者の2割程度と報告されていますが、まれにギラン・バレー症候群（神経障害）を発症することがあります。



ヒトスジシマカ（国立感染症研究所）

2 デング熱等を予防するために

ヒトスジシマカの活動時期は5月中旬から10月下旬ですが、成虫は8月が最も多くなりますので、7月末までに幼虫対策をしっかりと行うことが重要です。

幼虫の発生場所（国立感染症研究所）



古タイヤ

神社の境内

植木鉢の皿

ビニールテントの溝

墓石の花立て

手水鉢

マンホールの中

ポリタンクの中

発泡スチロールの箱

雨水マス

(1) 蚊を増やさないために（幼虫対策）

- ヒトスジシマカの幼虫（ボウフラ）は、小さな水たまりに発生します。
- バケツ、空き缶、植木鉢の受け皿、ビニールシートの窪み、古タイヤなどのほか、竹の切り株、樹木の窪み、岩にできた窪みなど、水が溜まる場所はどこでも発生源になります。
- 溜まった水をひっくり返したり、不要なものを片付けたり、定期的に水を変えたりしましょう。
- 排水溝や雨水マスはこまめに清掃し、簡単に排水できない場合は金網で蓋をしたり、幼虫の成長阻害剤などを定期的に投入しましょう。
- ヒトスジシマカは、池、プール、田んぼなどの大きな水たまりに産卵することはないため、池の水を抜くなどの必要はありません。

(2) 蚊を潜ませないために（成虫対策）

- ヒトスジシマカは『待ち伏せ型』の蚊です。
- 日中いつでも吸血しますが、日の出前後から早朝にかけての数時間と、薄暮から日没後1～2時間の間に活発に吸血します。
- 普段はやぶや木陰に潜み、人が近付くと周囲を飛び回って吸血します。
- ツツジ、アジサイのような低木の葉裏や、地面を覆うように繁るツタの葉裏などにも潜みます。
- 成虫が多い場合は、やぶや生け垣、庭木などの剪定や草刈りを行い、風通しや日当たりを良くし、成虫の潜伏場所をなくしましょう。

成虫の潜み場所（国立感染症研究所）



(3) デング熱等の発生リスクとヒトスジシマカ対策

- 日本では成虫は冬を越えられず、卵を介してウイルスが次世代に伝わることも報告されていないため、デング熱等の流行地から訪れた感染者が蚊に刺され、そこから感染が拡がるのが想定されています。
- 蚊の生息好適地がある観光施設、寺社、公園、イベント広場等のうち、
 - ①流行地*から多くの人を訪れる所（外国人観光客が多い所）
（*流行地：東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国、アフリカ、オーストラリア、中国、台湾等）
 - ②ジョギングや犬の散歩等の頻回訪問者が多い所や、大勢が集まるイベント等が開催されることが多い所に該当する場所は、デング熱等発生リスクが高いと考えられますので、特に念入りに幼虫対策と成虫対策を行きましょう。
- 施設利用者に対しては、長袖シャツ、長ズボンの着用、忌避剤の使用等を啓発し蚊に刺されないように注意を促しましょう。
- リスク評価の方法等については、最寄りの保健所にご相談ください。